

## 次期「府民躍動 雇用応援★夢プラン」策定に係る 第1回検討会議 結果概要

- 1 日 時 令和7年4月17日（木）10時～12時
- 2 場 所 京都経済センター 6-D会議室
- 3 出席者 渡辺誠座長、アンナ・クレシェンコ委員、浦坂純子委員、杉岡秀紀委員、鈴鹿可奈子委員、富田キアナ委員、濱田祐太委員、原敏之委員、村田淳委員  
オブザーバー：渡部愛氏、真鍋隆浩氏  
(以上11名※上田清和委員は欠席)

### 4 次期プラン策定の進め方について（事務局から説明）

- ・資料「次期『府民躍動 雇用応援★夢プラン』の策定について」により説明

### 5 基本データと京都府の取組について（事務局から説明）

- ・資料「基本データ」、「京都府の取組」により説明

### 6 主な意見

#### 【人手不足・人口減少について】

- ・北部の若手人材とりわけ高校生の人材確保や早期離職が課題となっている。
- ・人口減少や人手不足の状況を前提とした検討が必要である。
- ・AIが人手不足を解消する可能性もある中で、公的セクターが何をすべきか考える必要がある。
- ・人口減少下で必要な仕事とは何かを問い直す必要がある。
- ・日本型雇用慣行やメインストリームの概念自体を見直さなければならない時期に来ている。

#### 【就労支援について】

- ・早期離職した高校生の再就職支援が重要である。
- ・女性やシニア層の労働市場への参入を促進すべき。
- ・企業データを抱える金融機関との連携強化も必要である。
- ・障害者の就労支援も必要な視点である。
- ・留学生が京都で就職できる環境整備が必要であり、京都で働く魅力を伝える必要がある。
- ・妊娠出産だけでなく、不妊治療と仕事の両立という観点からの支援も必要である。
- ・パラレルキャリアへの理解促進や実践的な取組が必要である。
- ・就職指導を行う教員に対しても適切な企業情報を提供することが必要である。
- ・就職後、会社がフォローしきれず離職してしまう人へのセーフティネットこそ公的セクターに求められる重要な役割である。

#### 【企業環境等の整備について】

- ・仕事の面白さ・組織の中の人の良さ・賃金条件等の要素のうち2つがあれば人を惹きつけることができる。それぞれの要素を企業は磨く必要がある。
- ・京都企業の魅力を内外に発信しきれていない。
- ・職場に戻ってくる子育て世代の人材がキャリアアップできる環境が必要である。
- ・人手不足で倒産、閉業する伝統的な企業が増えている。伝統産業の魅力発信やマッチング機会の創出が必要である。
- ・ほとんどの若者が雇われる以外の選択肢を持っていない。いきなり起業することはハードルが高いとしても、個人事業主から事業を始められる選択肢の提供が必要である。
- ・障害者雇用を促進するために企業側の投資を促進する政策が必要である。

#### 【人材育成について】

- ・ものづくりの魅力を小学生の頃から伝えることが必要である。
- ・ベンチャー人材の育成・発掘の継続的な機会提供が必要である。
- ・必要な支援はされているが、支援を必要とする人に届いておらず、発信方法に課題がある。

#### 【その他】

- ・公的・民間問わず同じようなサービスを提供しており、それが利用者にとって見えづらい状況にある。関係セクター間の支援体制も含めたマクロの枠組みを検討する必要がある。

以上